

お わ り に

新学習指導要領が平成20年3月に告示されたのをうけて、今年度、「言語活動の充実と道德教育の推進」という研究主題で取り組んできました。

「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむ」ために、各教科で言語活動の充実に努めてきましたが、これまで4人グループでの協同学習に取り組んできたことをもとに、本校の特色でもあるICT機器も積極的に授業に取り入れながら実践研究を行ってきました。

一方、道德教育の充実については、畿央大学の島 恒生教授に研究発表会も含め、年間3回授業をみていただき、講評をいただきました。中心発問を工夫しながらより心に響く道德の授業のあり方を模索しました。

21世紀を生きていく子どもたちには、確かな学力を培うとともに豊かな心をはぐくみ、バランスのとれた人間に成長してほしいと強く願っています。

また、本校では、昨年度から研究発表会以外に年に数回校内大研の名称で各教科や道德の公開授業・研究協議の案内を県内すべての中学校に送ってきました。県内に広く実践を発信できる学校でありたいと考えたからです。去年、今年と研究発表会への参加者が増えているのも本校職員の実践を発信する機会が増えたことにもよるかと思えます。

来年度は、二年次の研究発表会を6月に予定しています。研究主題「言語活動の充実と道德教育の推進」のもと、言語活動を充実させながら思考力や表現力を培うとともに、豊かな心をはぐくむために道德教育の推進に引き続き力を入れていきたいと考えています。よりよい実践研究をめざし公立中学校等に参考にしていただける実践を提示していきたいと思えます。

本年度の実践について、まだまだ十分な研究内容には至っておりませんが、日々のいとなみの中から私たちがなりに見えてきたことを本研究紀要にまとめました。一人でも多くの先生方にご一読いただき、皆様の忌憚のないご意見、ご教示をいただければ幸いと存じます。ご指導いただきましたことを糧に、私たちは、さらに研鑽を深め、研究を進めてまいりたいと考えています。

最後になりますが、本研究の推進や教育研究協議会の開催にあたり、和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会、和歌山大学教育学部をはじめとする関係各位の皆様、そして懇切なご指導と暖かい励ましをいただきました諸先生方に心よりお礼申し上げます。

平成22年3月

和歌山大学教育学部附属中学校
副校長 栗本昌彦